

令和3年度 柳之御所遺跡第83次調査について

調査日時：令和3年6月1日～10月31日

調査面積：約800㎡

調査主体：岩手県教育委員会

担当：岩手県教育委員会生涯学習文化財課（奥州市駐在） 上席文化財専門員 戸根 貴之
 岩手県教育委員会生涯学習文化財課（奥州市駐在） 文化財調査員 中村 孝
 （公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（奥州市駐在） 主任文化財専門員 北村 忠昭

1) 目的

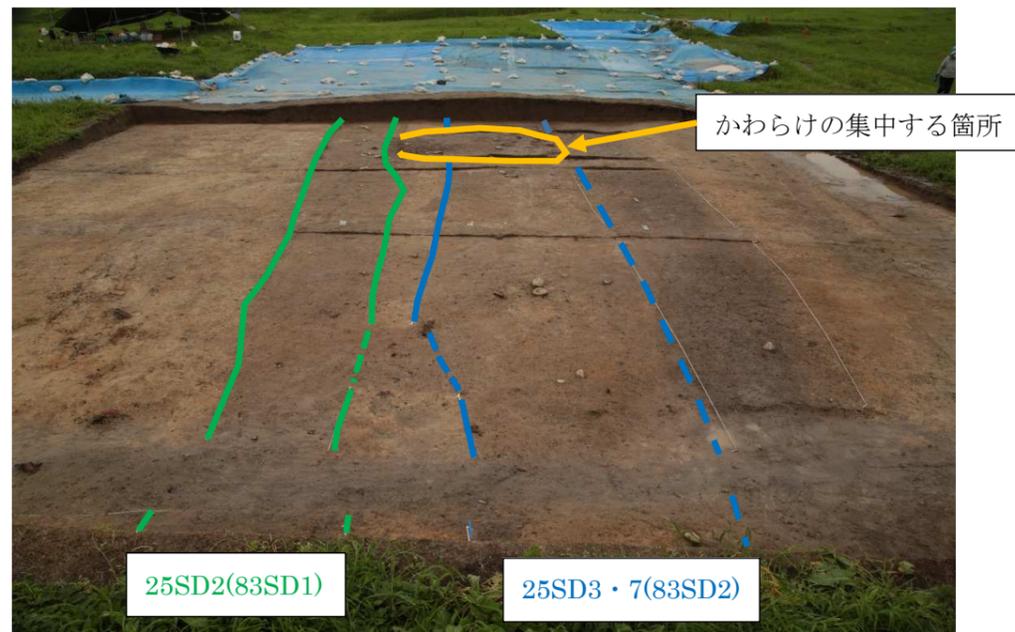
- ア 堀内部地区に近い範囲での区画のあり方や年代について情報を得ること。
- イ 堀内部地区に近い範囲での遺構の様相を確認すること。
- ウ 堀内部地区に近い範囲での道路状遺構の広がりを確認すること。
- エ 堀跡と道路状遺構の関係を確認すること。

2) 成果

- ア 道路状遺構と直交する方向に延伸する溝を確認しています。道路状遺構1を覆うようにかわらけの集中する箇所を確認しました。完形品が多く、年代を想定する良好な資料と考えられます。
- イ 部分的ではあるが、道路状遺構の北側には建物を構成すると想定される柱穴を確認しました。
- ウ 道路状遺構1・2ともに、堀内部地区に向かって延びていることを確認しました。また、部分的ですが、25SD3・7に並行する堀跡(83SA1)を確認しています。しかし、南側の道路側溝(29SD1及び80SD1)に関しては、近世以降の土地改変の影響を大きく受けており、残存していませんでした。
- エ 土橋の南側の一部を確認し、土橋の幅を想定する資料を得ることができました。土橋の一部に拳大の円礫が配置されていることも確認できました。

3) 今後の作業

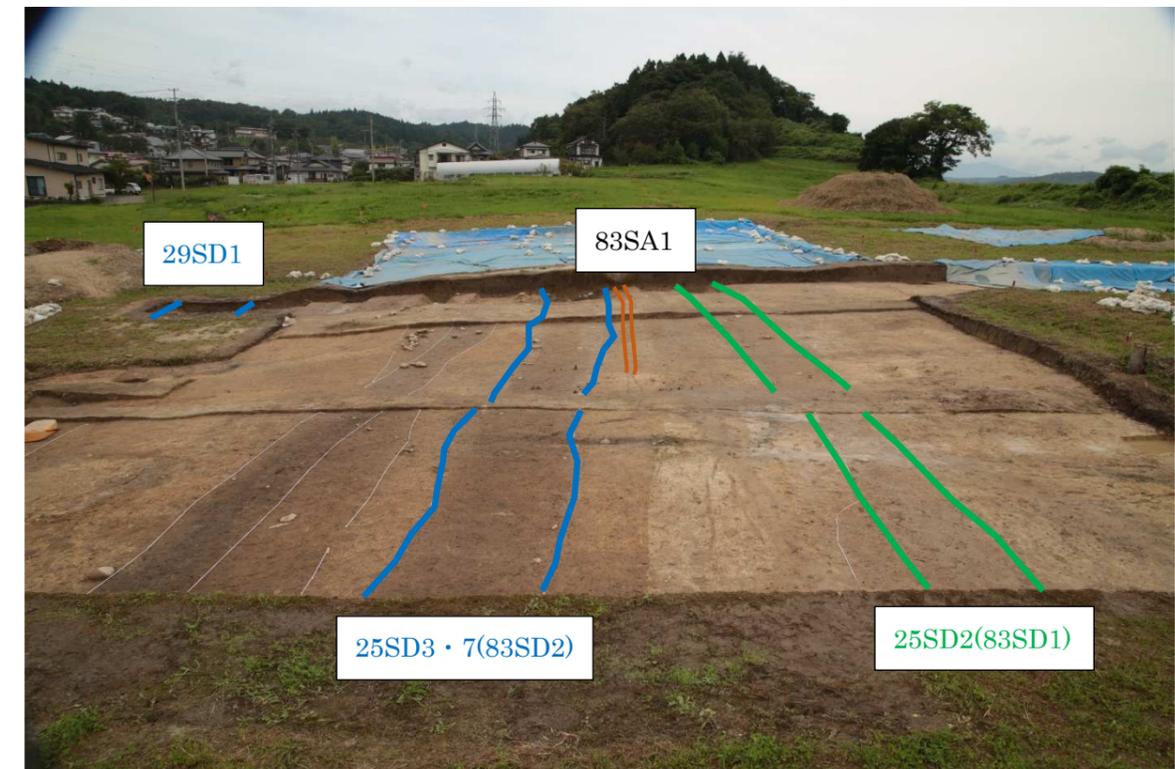
- ア 道路状遺構の延び方や時期を検討する資料を探るとともに、土橋と礫の関係性について確認していきます。



2条の道路状遺構（西側部分） 西（中尊寺方向）から撮影



2条の道路状遺構（東側部分） 東（堀内部地区側）から撮影



2条の道路状遺構（東側部分） 東（堀内部地区側）から撮影



道路状遺構 1 を被覆するかわらけが集中する箇所 東（堀内部地区側）から撮影



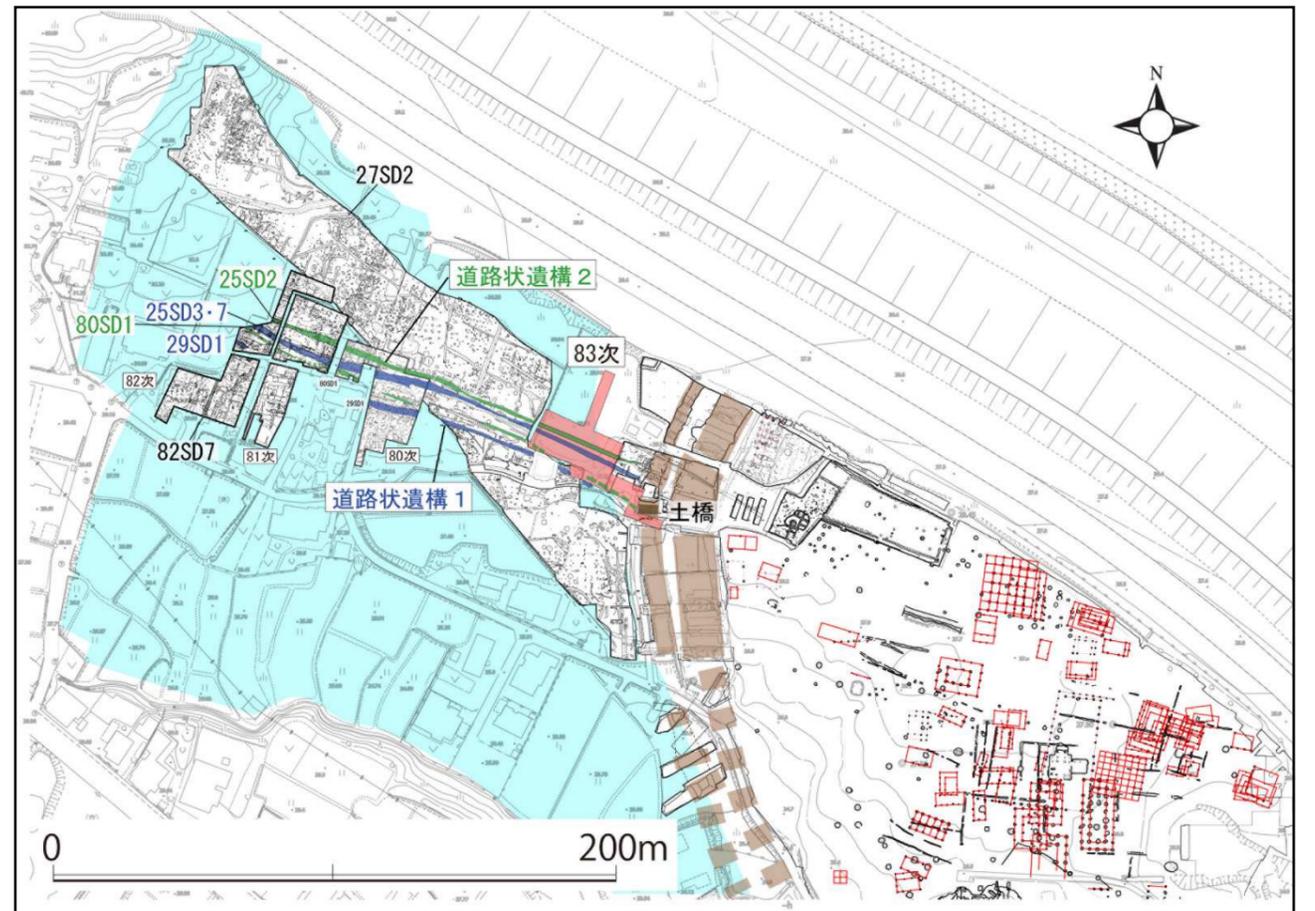
72SD2 と 79SX1 東（堀内部地区側）から撮影



トレンチ状に掘り下げた部分の様子
(上の写真の青矢印の方向から撮影)

(右) 真上から撮影

堀内部地区側



柳之御所遺跡第 83 次調査区位置図